

令和6年度

研究のまとめ

各支部 研究のあゆみ

宮崎県教育研究会 図書館教育部会

令和6年度 西臼杵支部 研究のまとめ

小学校12校、中学校4校、合計16校

1 研究主題

『魅力的な学校図書館づくり～家庭や公共施設・地域との連携を通して～』

2 研究の実際

(1) 環境整備

- ① 誰にでも使いやすい図書館であることを考え、表示の仕方や分類を工夫している。また、教科書に出てくる本、新刊、季節にちなんだ本、読み聞かせをした本、図書委員や職員からのおすすめの本などは特設コーナーを設ける等、図書館のレイアウトや図書館以外の廊下や踊り場を利用した展示なども工夫している。
- ② 小学校では、児童の手が届かない高い書架を全ての本に手が届くよう低い書架にしたり、机と書架をランダムに配置し、リラックスして本を読める空間にしたりと児童が気軽に図書館を利用できるような工夫を取り入れている。書架を低くしたことで現れた壁面に読書メーターを掲示し、貸出冊数の伸びが視覚的に分かるようにし、読書意欲を高める取組をしている学校もある。
- ③ ほとんどの学校が、古い本や破損した本、重複して購入している本の洗い出し、廃棄に力を入れている。書架に余裕をもたせ、本を平置きすることで児童・生徒が本を手に取り易くしている。除籍した本は、リサイクル本として配付している。普段選ばない本との出会いも大切にして欲しいという思いから数冊を詰め合わせ「本の福袋」として希望者に配付する学校もある。
- ④ 季節に応じた図書館にしており、図書館にやって来る児童・生徒の楽しみの一つとなっている。また、季節に応じた本も一緒に設営したり、おすすめの本として紹介したりしており、設営図書を借りる児童・生徒も多い。

(2) 読書推進の取組

① 読書目標の設定

全校での貸出目標冊数を設定したり、個人の年間読書目標冊数を設定させたりと読書に対する具体的な目標値を掲げることで、年間を通しての読書意欲を高めるようにしている。また、家庭での読書の時間を保障するため、週1回「ノー宿題デー」をつくり「読書の日」を設定している学校もある。

② 読書通帳の活用

読書意欲を高めること、日々の読書を記録して読書活動の足跡を残すことを目的に全校児童に読書通帳を配付し、活用している。読書通帳は、日之影町では統一した取組になっている。各個人の通帳は機械で印字され、記帳されていくので、目に見えて読書の状態が把握できる。

③ 児童・生徒主体の選書会

図書の本を購入するにあたって、児童・生徒の興味がある本を把握し、購入する本に反映させるために、児童・生徒による選書会を行っている学校も多い。新刊図書が並べられた中から自由に本を手に取り、選ぶ楽しさを味わうことができている。児童・生徒自身に選ばせることにより、図書室の本の重複を避けることもできている。

④ 図書委員の取組

年度初めに図書館利用についての啓発を行い、貸出の手順や本の取扱い方、本の種類や場所等についてプレゼンし、円滑に貸出ができるようにした。また、秋の読書祭りの企画、運営をおこなった。図書館でのイベントとして、図書室での宝探し、ハロウィン時期のワークショップ、読み聞かせ、しりとり読書、読書ビンゴ、ポップ作成、おすすめ本に関するアンケートの作成・掲示、読書集会など、図書委員を主体にして、児童・生徒が図書館に足を運び楽しめるよう様々な取組をしている。



⑤ 様々な読み聞かせの時間とリンクした学校図書館

ほとんどの学校が読み聞かせ活動を行っている。地域ボランティアや保護者ボランティアによる朝の読み聞かせ、図書活動推進員（町雇用）による読み聞かせ、高学年による下学年への読み聞かせ、全職員による読み聞かせ、全校児童・生徒が参加するビブリオバトルなど、児童・生徒が本を知る場の設定をしている。さらに、小学校では、読んでもらった本に興味をもち、もう一度自分で読みたいという児童のために、読み聞かせした本のコーナーをつくり、すぐに手に取れるよう工夫している。

(3) 家庭・地域・図書館サポーターとの連携

- ① ほとんどの学校で、保護者や地域の方による読み聞かせを実施している。全児童が理解しやすい本の選別、また、絵本だけではなく「影絵」「音楽」「歌遊び」を取り入れるなど、児童が楽しめる読み聞かせが工夫されている。
- ② ほとんどの学校で「家読」に取り組んでいる。「メディアコントロール週間」と合わせて家読週間を実施することで、家庭での読書環境づくりの啓発をしている。また、「家読カード」には、保護者が読んだ本、おすすめの本の欄を設け、そこで紹介された本は、次回の家読カードで紹介するシステムにし、親子が家庭で本に親しむ時間をつくれるよう呼びかけを行っている。
- ③ 日之影町内の学校では、町の図書活動推進員が週に1回来校し、図書室運営や読書環境づくりの支援をしてくださっている。新刊図書の受け入れ作業や図書室の読書環境の充実、国語科学習で使う関連図書の準備や学級文庫の整備など学習活動への協力、町立図書館の団体貸出を利用した放課後子ども教室の本の設置、町立図書館の本を児童・生徒が学校で借用できる体制づくり、県立図書館との連携など学校図書館運営の大きな力となっていた。
- ④ 高千穂町内の学校では、本年度、県図書担当事務職員が配置され、町内の小学校を巡回し、魅力的な図書館づくりに大きく貢献してくださった。季節に応じた図書館設営、様々な本を手にするしかけの発案（「すいかを探せ」「どんぐりを探せ」など季節ごとにその言葉を含んだ本を手にするようなしかけ）、分類、コーナーの工夫（辞書や図鑑の分類、児童が学習で作ったパンフレットなどの展示）、図書委員会児童への読み聞かせのアドバイス等をしていただいた。

3 成果と課題

(1) 成果

- 町によっては図書活動推進員、県図書担当事務職員の配置により、学校図書館の整備や読書環境づくりが大きく進み、児童の読書への関心が高まりつつある。特に、図書イベントの開催や児童・生徒が利用しやすい親しみやすい図書館づくりを工夫したことで、貸し出し冊数が伸びている学校が多い。
- ほとんどの学校が地域の方の協力を得て、読み聞かせを実施できている。読み聞かせの時間は、地域とのつながりの場としてもとても貴重な時間となっている。また、ボランティアの方の選書の工夫により、児童・生徒の発達段階にあった本や季節に応じた本に触れることができている。
- 県図書担当事務職員のアドバイス等もあり、委員会児童・生徒の主体的な働きが図書館の運営や児童・生徒の読書への興味を高める上で大きな力となっている。図書委員の減少や教員の多忙等により図書館運営の課題が多くあるのも事実であるが、児童・生徒と連携して図書館運営を行うことは、小規模校の課題を解決していく上で意義深い。

(2) 課題

- 貸出冊数が増えている学校が多いが、読書量が伸びない児童・生徒が固定化されている。家庭読書を楽しむ時間をつくれるよう発達段階に合わせて工夫していくことが必要である。
- 「読書センター」としての利用だけでなく、「学習センター」「情報センター」としての学校図書館づくりが望まれる。
- 西臼杵は複式学級を抱える小規模校が多いため、図書館教育に十分な時間をかけることができず、図書館運営が厳しい実態がある。また、すべての学校に図書司書の配置がされておらず、図書サポート機関が充実していない地域もあり、サポート面において学校間の差も大きい。図書館教育の充実のためには、地域全体の体制を整える必要がある。

(研究担当者 日之影町立日之影小学校 戸高留美子)

美郷南学園(前期課程)の活動の取り組み

1 読み聞かせ(毎週木曜日朝の時間)

(1) 目的

朝の時間を活用し、読み聞かせボランティアの読み聞かせの時間を設定することで、幅広い本に出会い、読書活動への推進を図る。

(2) 方法・内容

毎週木曜日の朝、8時5分～8時15分の10分間
2学年ずつ読み聞かせを行う。



2 全校集会(ファミリー班での読み聞かせ)

(1) 目的

異学年で交流できるファミリー班を活用し、上学年の学園生が下学年の学園生に読み聞かせを行うことで、交流を図り、読書活動の活性化へつなげる。

(2) 方法・内容

全校集会で、ファミリー班ごとに分かれ、上学年が読み聞かせをする。



3 各学年の取り組み

○ 3・4年生(読書ビンゴ)

5×5のマスで行った。ビンゴができたときは、しおりをプレゼントして活用した。

○ 1・3年生(国語)

お気に入りの1冊を決めよう



美郷南学園（後期課程）の活動の取組

1 学級文庫の設置

(1) 目的

学校行事が多い中でも、できるだけ多くの生徒に少しの時間でも本に触れる機会を増やすため。

(2) 方法・内容

年に3回、宮崎県立図書館より送られる「やまびこ文庫」を利用して、各学年(各学級)に学級文庫として配置する。



【学級文庫】

2 図書祭りの実施

(1) 目的

様々な書籍に興味をもち、本についての理解を深めることで、全ての学園生が読書に親しむきっかけをつくる。

(2) 方法・内容

後期ブロックの学習委員会の図書担当の生徒が中心となり11月最終週の3日間で図書祭りを企画した。内容としては、「読書クイズ」、「読書検定」、「POPの作成」、「読み聞かせ」などを行い、図書室のみならず、隣の家庭科室も開放して、多くの学園生にチャレンジしてもらった。



【読書検定の様子】



【読書クイズの様子】

3 読みログの展示

(1) 目的

学級のおすすめ本を他の学園生に紹介することで、読書への興味を広げる。

(2) 方法・内容

後期ブロックの生徒を中心に、各クラスで2冊ずつおすすめ本を紹介してもらい、紹介する記事を作成し、生徒玄関の長机に展示した。



【読みログの展示】

4 成果と課題

(1) 成果

- 学習委員会図書担当や、読みログで紹介された本に興味をもち、その本を読む生徒もいた。
- 図書祭りでは、「読書検定」にチャレンジする生徒がたくさんおり、合格して達成感を味わっている生徒や、本に興味関心を抱く生徒もいた。
- 学習委員会図書担当が「図書祭り」を企画し、実施できたことで、本人たちの自信につながっていた。

(2) 課題

- 読書量に関しては、後期課程の生徒は、前期課程の生徒に比べ、委員会や部活動などの多忙さにより、読書の時間がもてなかったり、読書する機会をなかなかもてなかったりとじっくりと書物に触れあう時間がなかった。
- 本校の校時程の中で、意図的に読書に触れさせるような時間や機会を意図的に設けていく必要があると思われる。

〈 研究担当者 美郷南学園 山之内 整 〉

「魅力的な学校図書館づくり」

～各学校における読書指導の実践を通して～

本年度、県北大会で発表を行ったので、その概要をまとめている。

1 主題設定の理由

学校図書館は、児童生徒の興味・関心に応じて自発的・主体的に読書や学習を行う場、読書等を介して創造的な活動を行う場である。そのため、学校図書館は落ち着いて読書できる安らぎのある環境や、知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境を整えることが望ましい。また、学校図書館は教室での固定された人間関係から離れ、一人で過ごしたり様々な人々との関わりをもつことができたりする場である。児童が学校図書館を校内における「心の居場所」としていることも少なくない。そこで、「学校図書館に親しむ」ことが、「学びを支える」「心を支える」ことにつながると考えた。

2 研究目標

魅力ある学校図書館をつくっていくために、読書環境の整備や読書活動を推進することで、意図的に学校図書館の利用者を増やし、本や読書への興味・関心を高める。

3 研究の仮説

校内の教職員や司書、委員会児童と連携しながら、魅力的な学校図書館づくりに向けて様々な取組を行えば、学校図書館に来館する児童が増え、本や読書に興味をもち心のオアシス的な居場所として提供できるのではないかと考えた。

4 研究の実際

(1) 読書量を増やす取組

毎月の図書館イベントとして、毎月図書カウンターの横に季節の本を提示したり、カウンター横の「わくわくコーナー」で毎月クイズや今月の催しを知らせたりした。

また、市立図書館「みんなでつながろう！ブックバトン」と連携させた取組では、学校図書館にブックバトン作成コーナーを設け取り組んだ。他には、「みんなに読んでほしい本」と題して、6年生のおすすめの本をPOPで紹介した。

(2) 経営の工夫

掲示の工夫では、学校図書館の入り口に、毎週の図書の貸出冊数を数字とともにグラフで表示した「読書メーター」の掲示や、季節を感じる掲示、「今月の言葉遊び」としていろいろな言葉や文章を掲示した。また、時期によって設定したテーマに関連した本を並べるコーナーを学校図書館内に設けた。

配架の工夫では、新刊、図書委員会によるおすすめの本、国語の教科書で紹介されている本等について紹介や設置を行った。

(3) 委員会活動での取組

学校図書館内には、年度初めに委員会児童で設定した1年間の目標貸出冊数を掲示した。また、「図書委員会や職員による読み聞かせ」、「読書ビンゴゲーム」、「塗り絵コンテスト」、図書キャラクターの募集」等の図書委員会によるイベントの実施、運営を行った。

(4) 選書の工夫

児童が「読みたい」と思う本を一冊でも多く図書室に設置し、より児童の読書への意欲を向上させるために、児童の貸出傾向を基に選書を行った。また、選書会では、複数の本を実際に見比べながらより読みやすい本選びに努めた。

5 児童への意識調査

(1) 図書貸し出し冊数の調査結果

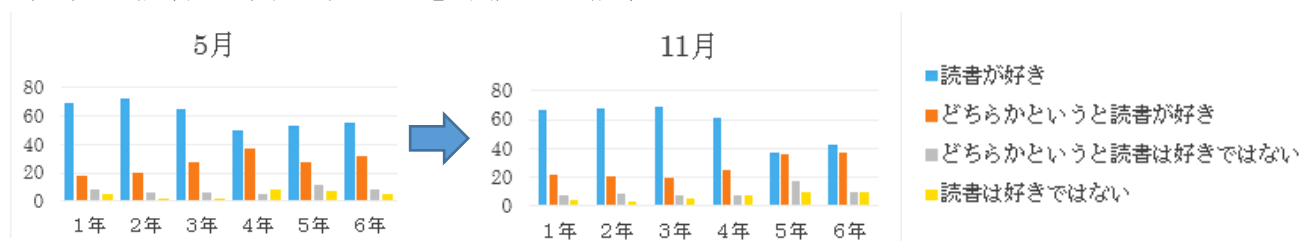
【5月】

| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 合計 |
|-----------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 児童生徒数(人) | 402 | 417 | 453 | 480 | 472 | 488 | 2892 |
| 総貸出冊数(冊) | 3797 | 2953 | 2435 | 2844 | 1751 | 3412 | 17192 |
| 平均貸出冊数(冊) | 9.4 | 7.1 | 5.4 | 6.2 | 3.7 | 7.0 | 6.4 |
| 一冊も読まなかった児童数(人) | 8 | 4 | 23 | 9 | 59 | 48 | 151 |
| 不読者率(%) | 2.0 | 1.0 | 5.1 | 2.0 | 12.5 | 9.8 | 5.8 |

【11月】

| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 合計 |
|-------------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 児童生徒数(人) | 400 | 427 | 446 | 459 | 458 | 483 | 2873 |
| 総貸出冊数(冊) | 5939 | 4402 | 4842 | 5419 | 2428 | 2435 | 25485 |
| 平均貸出冊数(冊) | 14.8 | 10.3 | 10.9 | 11.8 | 5.3 | 5.0 | 9.5 |
| 一冊も読まなかった児童生徒数(人) | 0 | 2 | 4 | 7 | 4 | 14 | 31 |
| 不読者率(%) | 0 | 0.5 | 0.9 | 1.5 | 0.9 | 2.9 | 1.2 |

(2) 読書に対する児童の意識調査の結果



(3) 図書貸出冊数調査及び読書に対する児童の意識調査の結果から分かること

5月と11月を比較すると、総貸出冊数が8273冊、48%増加した。また、平均貸出冊数は一人6.4冊から9.5冊に増加した。そして、1ヶ月1冊も読まなかった児童は151人から31人に減少し、不読者率が5月から4.4%減少した。しかし、高学年に限定するとその人数は増加した。読書に対する意識調査では、中学年で「読書が好き」「どちらかというを読書が好き」という児童が増加した。

6 成果と課題

(1) 成果

- 新刊コーナーの本や図書委員おすすめの本等を提示することで、本に興味をもち学校図書館を利用する児童が増加した。
- 児童がどのような本に興味をもっているかを把握することで、選書に活かすことができた。
- 図書委員会の児童を中心に児童主体のイベントを実施することで、楽しく来館できる雰囲気をつくることができた。

(2) 課題

- 学校図書館の魅力的な環境整備をし、利用しない児童に働きかける必要がある。

7 おわりに

読書は心の栄養となり考える力の源となる。本との出会いや子どもたちの「本が好き」「もっといろんな本を読みたい」という思いを大切に、様々な実践を参考にしたり情報を収集したりしながら、より利用しやすい魅力ある学校図書館作りに努めていきたい。

<研究担当者 日向市立財光寺小学校 齋藤彩音>

1 研究主題

| |
|---|
| 児童生徒の生きる力を育む指導の在り方 ～地域・家庭・公共図書館との連携を通して～ |
|---|

2 研究の実際

(1) 活動班の編成

- ・学校図書館教育研究大会県北大会の組織づくり

① 庶務部

- ア 会場割り振り
会場の下見をして、収容人数と機器（スクリーン等）の設備の有無を確認した。
- イ 立て看板準備
- ウ 会場案内の掲示物準備
- エ 作品掲示の準備
県から送付された過去の読書感想画優秀作品のパネルの掲示場所を検討
- オ 分科会記録用紙作成
記録係を庶務部から分科会に一人ずつ配置
- カ 会場レイアウト図作成
開会式の会場と分科会の部屋の配置をレイアウト図に起こす。（総務部）
- キ 駐車場案内の表示カード準備
- ク 来賓用駐車カードの作成

② 研究部

- ア 研究主題説明の原稿作成
研究部長が作成し、メンバーに見てもらい、校正した。
- イ 発表者との連絡
研究紀要係が発表者との連絡をまめに取り、原稿を回収できた。
- ウ アンケートの作成
アンケート係がQRコードを作成し参加者にアンケート協力を呼びかけ、集約。
- エ 発表機器の確認
分科会ごとに機器の責任者を決め、その学校に依頼文書を送り、台数を確保した。
- オ 発表機器の準備
機器の責任者に自校の機器を搬入してもらった。
- カ 分科会進行原稿作成
前回の日南・串間大会の資料より様式を借りて、時間・氏名を打ち変えた。
- キ 分科会運営表作成
前回の資料を活用したが、整合性を指摘され、見直しが足りなかったと反省
- ク 会次第作成
- ケ 紀要原稿の収集・校正
発表原稿を中心に、必要な文書をそろえ、4人態勢で校正を行った。
- コ 製本準備
校正が済んだ原稿を、大会会長に見ていただき、印刷所に依頼。
- サ 製本依頼
印刷所に依頼し、カラーで整えてもらう。費用は予算内で収まる。

(2) 研究集録の作成

- ・学校図書館教育研究大会県北大会の研究紀要作成

〈手順〉

- ① 発表者の原稿回収
- ② 原稿を校正（誤字・脱字のみ）
- ③ 前回の紀要の校正を見て、原稿依頼（挨拶文など）と会場図、発表者一覧などの資料

を添付

- ④ 県のホームページにデータを送信
- ⑤ 研究紀要をホームページでダウンロード・閲覧できるようになる。

(3) 読書感想文・感想画延岡支部の実施

- ・感想画の審査は、担当学年を割り振って選考し美術家の審査委員に最終選考していただく。
- ・審査委員を市教委と中学校からお二人に依頼し、感想画の審査に当たっていただく。
- ・読書感想文は、学年別のテーブルで審査を行い、代表作品を選出した。
- ・読書感想文の方がやや出品数が少なく、今後、啓発をしていく必要がある。

3 その他の取組

(1) 延岡市図書館協議会への参加

延岡市立図書館の協議会に参加し、ヤングアダルト層へのアンケートにも協力できた。

(2) 市教研学校図書館部会の開催

今年度は、県北大会があり、多くの時間を部会のメンバーで協同できた。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 支部内の協力により、学校図書館教育研究大会の県北大会が開催でき、盛会に終わる。
- 各地域・各学校それぞれの取組がよく分かり、発表者の先生方の功績は大きかった。
- 支部の読書感想画が素晴らしい作品が多く、全国大会に歩を進めた作品が出たこと。

(2) 課題

- 研究大会が夏休みに実施できたが、休みに入っている学校が多く、直前の連絡がなかなか困難で、夏休み期間を県下で統一する必要性を感じた。
- 支部内での役割分担をしたものの、部や班によって取り組みの差があり、一部に負担がかかったのが大きな反省点である。分業と共通理解のために、部会を適宜設定すると良いと思われる。

〈研究担当者 延岡市土々呂中学校 本寺 はつみ〉

1 研究主題

『学習情報センターとしての学校図書館の活用について』

2 研究の実際

昨年度に引き続き「学習情報センターとしての学校図書館の活用について」を研究主題とし、「各教科及び総合的な学習の時間との関連」「学習情報センターとしての学校図書館の利用指導」「学習情報センターとしての学校図書館における学び方指導」「学習情報センターとしての学校図書館の資料準備と充実」「学習情報センターとしての学校図書館活性化」のいずれかのテーマについて各学校で取り組み、実践例をまとめて各校で活かせるようにした。以下がその実践例である。

(1) 各教科及び総合的な学習の時間との関連

- 国語科での活用を図った。小学校では、おすすめの本の1年生への読み聞かせや（写真①）、関連のある図書を利用した調べ学習を行った。
また、中学1年で学ぶ「表現技法」を、本から探してみつけるという学習活動や、中学2年生の「徒然草」で「今でも使える兼好法師の教えを紹介しあう」学習活動、また、中学3年生では、論語に関する本から座右の銘にしたい言葉を探す活動を行った。
- 家庭科・保健・生活科での調べ学習を行った。中学3年生では、実際に幼児と一緒に遊ぶことを想定して、どんな遊びがよいかなどを調べる活動で図書室を活用した。
- 総合的な学習の時間での調べ学習を行った。修学旅行事前学習や弁論大会原稿作成のための資料探し、こすもす科でのパンフレットを活用した学習を行った。（写真②）



（写真①）3年生国語科「おすすめの1さつを決めよう」で1年生に読み聞かせをしている様子



（写真②）市の「広報こぼやし」のパンフレットを見ながら調べている様子

(2) 学習情報センターとしての学校図書館の利用指導

- 年度初めに、学校司書や市立図書館職員等と連携した図書館オリエンテーションを実施し、図書室利用指導を行った。

(3) 学習情報センターとしての学校図書館における学び方指導

- 中学校に入学してくる1年生に向け、図書室にある絵本を選んで書評作成を行った。（写真③）
- 図書室にある短歌の本から選んで、短歌の鑑賞文を書く活動（視点に沿って書き、読み合って助言し合う）を行った。



（写真③）できあがった書評

(4) 学習情報センターとしての学校図書館の資料準備と充実

- 「授業支援図書計画表」の見直しを行い、図書購入や資料の準備に活用した。
- 教科書関連図書コーナーを設置した。(写真④) また、調べ学習しやすい書架の整備も行った。(写真⑤)



(写真④) 教科書関連図書コーナー



(写真⑤)
書架の整備

- 単元ごとの関連図書の資料の収集・配本を図書協力員や市町立図書館に依頼した。また、電子図書館の電子図書利用も始めた学校もある。
- 蔵書の管理と整備については、不明本や除籍本の整理や新刊本、新刊国語辞典購入を進めた。

(5) 学習情報センターとしての学校図書館活性化

- 図書室レイアウトとして「季節の本コーナー」「新刊コーナー」「おすすめの本コーナー」「新聞記事コーナー」を設置した。
- 各種イベント(ビンゴ、ウォークラリー、クイズ、スタンプラリー、ビブリオバトル、POP作成、読書の木、ドベントカレンダーなど)を行うことで、児童生徒の興味関心を高めた。
- ボランティア、生徒、図書協力員による読み聞かせを行った。
- 漢字検定、英語検定用の教材配置やその他問題集・辞書・学習に関わる本コーナーの設置を行った。
- 「学校図書館検索ポータルサイト」を、ICT支援員と図書協力員の協力のもと、作成した。(写真⑥)
これにより、児童及び教職員は手元のタブレット PC を用いて、いつでもどこでも学習に必要な図書を検索することができるようになった。



(写真⑥) 図書館検索ポータルサイト

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 2年継続した研究により、「学習情報センター」としての意識の高まりが見られた。
- どの学校においても工夫した取組が行われ、「学習情報センター」としての機能が高まった。

(2) 課題

- 図書担当だけでなく、全職員に「学習情報センター」としての意識の向上を図り、「学習センター」という周知徹底を図る必要がある。
- 電子図書館の活用を進めるとともに、紙媒体と電子書籍との併用について考えていく必要がある。

〈研究担当者 小林市立西小林小学校 赤嶺 恭子〉

【小学校部会】

1 研究の目標

豊かな心と学びを育む学校図書館 ～学校における読書指導を通して～

2 研究の実践

(1) 読書活動の工夫

① 読書時間の設定

全校児童が一斉に読書に取り組む時間を確保・保護者や地域ボランティア、図書館サポーターによる読み聞かせ（給食時間の放送等）・「家庭読書の日」の実践

② 学校図書館の環境整備

国語科の学習に関連した本を集めたコーナー・「くれよん号」の活用

③ 読書履歴の視覚化

「読書貯金通帳」を作成

(2) 図書館利用が活性化するための手立て

① 貸出冊数を増やすための取組

「1冊プラス券」の配付・「多読賞」の表彰

② 親しみのある学校図書館にするための取組

本のポップや各コーナーの設置・図書館近辺の掲示・「図書館だより」の発行

(3) 学期ごとの読書活動（イベント）の工夫と推進

① 学校行事や季節に合わせた図書館

イベントの実施

② 児童が読書の幅を広げることを

意図したイベントの実施



【読書玉入れ（祝吉小）】



【あじさい読書（山田小）】

(4) 図書館サポーターとの連携

① 年度初めの学校図書館オリエンテーションによる図書館利用の指導

② 図書館の掲示やイベント企画・実践

③ 授業に関連する本の収集依頼

3 成果と課題

(1) 成果

- 各学校での取組を共有することで、自校の取組の参考にすることができ、地区全体における児童の読書活動推進につながった。
- 項目を整理しながら学校における読書指導を見直すことで、意図的視点をもって児童の読書活動に対する手立てについて考えることができた。

(2) 課題

- 図書主任や図書館サポーターが実践の中心となっており、学校全体で効果的な読書指導に取り組むための教職員の学びの機会が確保できていない。
- 学校の規模や図書館サポーターの配置状況により、取組が制限される学校もあるため、共有した取組の中から自校に合ったものを選び、工夫を加えながら実践する必要がある。

【中学校部会】

1 研究の目標

1年間を通じて計画的に読書指導を行い、生活の中で読書に親しむ態度を培う。

2 研究の実際

(1) 1年間を見通した読書指導計画の立案

計画的に読書指導を行うために1年間の指導計画を立てた。

段階的に活動の強度が上がるように、また、関連のある授業の単元や学校行事を絡めて効率的に指導できるようにした。「おすすめの本紹介」に関しては、

職員に紹介を依頼した。また、放課後20分間の「西岳タイム」を活用した読書活動も師弟同行で実施し、教員という身近な存在への興味が読書への興味へ移行するように工夫した。また、貸出時に本に関する助言が得られるよう、図書館サポーターが来校する水曜日を図書の貸出日に設定した。



(2) 図書館利用が活性化するための手立て

広く都城地区内から情報を集めた結果、図書館利用の活性化に向けて右記のような取組をしている学校が多くあった。いずれも、図書館へ通うきっかけ作りとして有意義な活動となっている。

- ・図書委員による購入本の選本
- ・季節や行事に応じた特設コーナーの設置
- ・学年ごとの読書量が分かる掲示物の作成
- ・教員によるおすすめ本紹介
- ・ポップコンテストの実施
- ・図書館祭りの実施

(3) 図書館サポーターとの連携

十進分類法に基づく図書館の整備や本の探し方の紹介、壊れた本の修復や保護など、専門的な知識を生かした業務を担っている。また、(2)に挙げた図書館のレイアウトや諸イベントの実施について、教諭のみでは手が行き届かない部分をサポートしてもらっている。設営や企画が大変充実し、生徒にとっても「通いやすい図書館」となっている。

3 成果と課題

(1) 成果

- 段階を踏んだ指導と常時活動を併せて計画的に実施したことにより、常に読書に親しむ環境を作ることができた。
- 令和5年度の貸し出し冊数(509冊)は、令和4年度の貸し出し冊数(127冊)を大幅に上回った。
- 図書館サポーターと連携し、読書への関心を高めるための図書館設営やイベントの企画運営ができた。

(2) 課題

- 読書の幅や機会を拡充し、生涯読書に親しむ環境をつくるためにも、市や県の図書館利用を検討していく必要がある。
- 図書館サポーターについては学校の配置状況に差があるため、密に連携し、その職能を活かす取組の充実を図りたい。

令和6年度 児湯支部 研究のまとめ

小学校12校、中学校7校
小中一貫校2校、義務教育学校1校

- 1 研究主題 「豊かな心と学びを育む学校図書館」
- 2 研究内容 学習情報センターとしての学校図書館の活用に係る実践
- 3 研究経過

| 期 日 | 事 業 名 | 内 容 等 | 会 場 |
|---------------|-------------------------|---|-----------------|
| 6月3日 (水) | 児湯学校図書館教育 研究会小学校部会 | 令和6年度県大会県北大会 発表用資料検討 | 通山小学校 |
| 5月28日 (火) | 第1回支部長会 | 令和5年度事業報告・決算報告 令和6年度事業計画・予算案 | 安井息軒記念館 |
| 6月14日 (金) | 第1回実務担当者会 | 令和6年度県大会県北大会 感想文・感想画コンクール | 安井息軒記念館 |
| 6月20日 (木) | 児湯学校図書館教育 研究会第1回研修会 | 令和5年度事業報告・決算報告 令和6年度事業計画・予算案 令和6年度県大会県北大会 感想文・感想画コンクール | 都農中学校 |
| 7月31日 (月) | 児湯学校図書館教育 研究会小学校部会 | 令和6年度県大会県北大会 発表用原稿等資料検討 | 通山小学校 |
| 8月8日 (木) | 県大会県北大会 | 研究発表・研究協議 | 延岡市社会教育 センター |
| 10月1日 (火) | 児湯学校図書館教育 研究会第2回研修会 | 読書感想文・感想画地区審査 | 都農中学校 |
| 11月14日 (木) | 県読書感想文・ 感想画 県審査 | 審査 | 県立図書館 |
| 12月17日 (火) | 第2回実務担当者会 (理事長・研究部長) | 読書感想文・感想画地区審査報告 研究のまとめ・九州大会 | 安井息軒記念館 |
| 2月20日 (木) | 第2回支部長会 | 令和6年度事業報告・年間反省 読書感想文等本選賞状等配付 次年度にむけて | 安井息軒記念館 |

4 研究目標

本研究は、川南町と都農町の計8校の小学校合同で行った。学校図書館の図書を活用することで、教科の学習内容の理解を深めることができると考え研究を進めた。

5 研究の仮説

- 単元の中で学校図書館を利用する学習時間を設けることで、活用する目的が明確になるだろう。
- 教科の内容と連動した学校図書館の利用を図ることで、学習内容の理解を深めることができるだろう。

6 研究の実際

(1) 国語科における学校図書館の利用（単元名等）

① 各学年の活用

- ・1年生：「じどう車くらべ」・「どうぶつの赤ちゃん」

- ・ 2 年生：「どうぶつ園のじゅうい」・アーノルド・ローベルの本を読む
- ・ 3 年生：図書館の利用の仕方
- ・ 4 年生：百科事典の調べ方・「伝統工芸のよさを伝えよう」・
「もしものときにそなえよう」・「自分だけの詩集を作ろう」
- ・ 5 年生：「この本、おすすめします」
- ・ 6 年生：「日本文化を発掘しよう」

② 指導内容

授業では教科書で本文を学習後、学校図書館の図書を利用して調べ学習を行った。調べた内容は、絵や文章などでまとめた。また、学習した物語文の作者に関連した図書を探して読んだり、児童間で読み聞かせを行ったりした。

(2) 生活科（1・2 年生）・社会科（3～6 年生）における学校図書館の利用

① 各学年の活用

- ・ 1 年生：秋の植物調べ
- ・ 2 年生：生き物調べ・おもちゃの作り方調べ
- ・ 4 年生：「地域の発展につくした人々」・「自然災害から人々を守る」

② 指導内容

生活科では、教科書では足りない情報や知識を図書で調べた。社会科では、学習内容に関連した調べ学習を行い、新聞や画用紙にまとめた。

(3) その他の取組

① 総合的な学習の時間

- ・ 3 年生 地域の生き物調べ
- ・ 4 年生 福祉関係の調べ学習、キャリア教育
- ・ 5 年生 米の作り方
- ・ 6 年生 キャリア教育、SDGs についての学習

② 学校間での情報の交換

川南町内の小学校では、11 月の読書月間に合わせて、各学校の図書委員がおすすめの本紹介カードを書き、学校間で交換した。他の学校の児童が書いた紹介カードを学校図書館に掲示することで、同じ本があるか探したり、読んだりしていた。

③ 図書選定の工夫

新しく購入する図書を、学級担任に選定してもらった。授業や児童の学習で活用しやすい図書を中心に選定した。

7 成果と課題

(1) 成果

- これまで9 分類の図書を手に取っていた児童が多かったが、他の分類の図書を借りたり読んだりするようになった。
- 友達と自分が調べた内容が異なるため、児童同士の意見交流が活発になった。
- 自分の知りたい内容や学習の目的に応じて、図書を吟味できるようになった。

(2) 課題

- 学校図書館を利用しやすい単元に偏りがあった。計画的な購入が必要である。
- 学校図書館の蔵書数に限りがあるため、指導者が事前に見通しをもって公立図書館から貸し出しを行うことが必要だった。公立の移動図書館等も活用したい。
- 利用の仕方には個人差があるため、継続した利用と指導が必要である。
- 学校図書館の蔵書が古いものも多く、予算等の関係で必要な新刊図書が入らず、最新の情報が得にくい場合もある。公立図書館との連携が必要である。

令和6年度 西都支部 研究のまとめ

小学校 5校、中学校 3校、小中一貫校 4校 合計 12校

1 研究主題

『魅力的な学校図書館づくり ～豊かな心と学びを育む学校図書館～』

2 研究の実際

(1) 蔵書の整理

西都市内の銀上学園を除く中学校5校は、統廃合を2年後に控え、現在の蔵書を新中学校に移すことができないことや、書庫にかなり古い本があり、新しい本を置くスペースが不足してきていることから、古い本の廃棄を大々的にする必要があった。まず、夏休み中の職員作業として廃棄する本の選定を行った。廃棄することで書庫に余裕が生まれ、新刊コーナーを作るなど、手に取りやすい位置や置き方を工夫することができた。廃棄した蔵書は、小学校においても参観日などを利用し、古本市として希望者に配付するなど、有効活用できた。



【古本市の様子】

(2) 掲示の工夫

ア 学校図書館入り口の掲示

図書館の窓や図書館の出入り口などに、季節感のある飾り付けや新刊本のお知らせなどのPOPを掲示し、児童生徒が図書館に入りたくなるような雰囲気をつくっている。また、出入り口に本年度の貸し出しの目標冊数を掲示したり、学期ごとの多読賞の結果を掲示したりすることで、貸し出し冊数を意識した図書館利用も目指すことができた。



【多読賞の結果を掲示した入り口】



【季節感の飾り付けをした入り口】

イ 多様なコーナーの設置

場所や季節ごとに特設コーナーの設置を行い、児童生徒がいろいろな図書に興味をもつような仕掛けをつくることができた。

- ・ 国語の教科書に出てくる本を集めたコーナー
 - ・ 児童生徒によるおすすめ本のコーナー
 - ・ 先生たちによる推薦本のコーナー
 - ・ 季節や行事などに関するコーナー
 - ・ 新刊本のコーナー
- など



【先生たちの推薦本コーナー】



【新刊本コーナー】

(3) 読み聞かせの実施

昼休みの図書室で図書委員会による読み聞かせを実施したり、外部のボランティアの方に読み聞かせをしてもらったりするなど、図書室を魅力的な場所にする取組を行った。小学校では、高学年が低学年に、小中一貫校では中学生が小学生に読み聞かせを実施しており、児童生徒も読み聞かせの日を楽しみにしている。多様なジャンルの読み聞かせを実施することで、さまざまな本に触れるよい機会になった。



【高学年による読み聞かせ】



【ボランティアによる読み聞かせ】

(4) 「家読の日」の取組

家庭での読書を通して、家族とのコミュニケーションを深めるとともに感想を記録することで、想像力、表現力なども身に付けることを目的として、「家読の日」を定期的に設けている。

読んだ本の記録は、図書室に掲示したり、給食の放送で紹介したりしており、児童生徒が本を選ぶ際の参考になっている場面も見られた。



【家読の本紹介】

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 古い本を廃棄することで、新しい本を手にする生徒が増えた。
- 図書館出入り口の掲示を工夫することで、今まで図書館に入ったことのない児童生徒の来室のきっかけとなった。

(2) 課題

- 閉校後の蔵書の移管のこともあり、廃棄についてさらに共通理解を深めていく必要がある。

〈 研究担当者 西都市立穂北小学校 安井里子 〉

◇ はじめに

本支部では、昨年度に引き続き研究主題を「豊かな学びを育む学校図書館～特別支援教育の視点に立った読書指導の充実」とし、研究を進めてきた。今年度は県大会において「特別支援教育における読書活動」の取組について発表し、それをもとに各校で読書指導の充実を目指し実践を重ねてきた。今年度の研究の実際について報告する。

1 研究主題

「豊かな学びを育む学校図書館～特別支援教育の視点に立った読書指導の充実」

2 研究の実際

(1) 空間をつくる ～スペースを創る～

- ① 配置・配架…… ユニバーサル仕様（館内動線の工夫）
 - ② 蔵書資料の再構築…… 除籍・刷新（循環）
 - ③ アート力（いやしセンターとして）……情報の精選と統制（視覚的・聴覚的）
- 上記 3 点を意識した空間づくりに努めた。

また、「新刊」「おススメの本」コーナー設置や季節ごとの装飾、読書に集中できるレイアウトなどの環境整備、児童・生徒の利用頻度の高い部屋への図書室移動、学校図書館イメージキャラクターの企画・設定により、来館のきっかけづくりにも取り組んでいる。

(2) 時間をつくる ～構造化(ルーティン化)の考え方を取り入れた、スキルの育成～

以下のような時間や機会を確保することにより「本の貸し借り」のスキルアップにつなげるとともに、読書習慣の確立を目指した。

- ① 図書館オリエンテーション
年度当初に、司書や図書主任が、その学年に応じた「オリエンテーション」を実施し、図書館活用のスキルの向上に取り組んだ。
- ② 本とのふれ合い
 - ア 読み聞かせやブック・トーク、児童がお互いに本を紹介し合う「アウトプット読書」等の読書活動の後に、貸出・返却の時間を設けている。
 - イ 移動図書館や団体貸出も活用し、市立図書館の企画「旅する読書」にも積極的に取り組んでいる。
 - ウ 読みたい本がないときは、市立図書館と連携し学校に持ってきてもらうことで読書量が増えてきた。また、本の貸出日には、ジャンルの偏りをなくすため、教師がアドバイスをしたり、文章を読むことが苦手な生徒に対して、文字数を提示して選ばせたりするなどの工夫をしている。
- ③ 1 バッグ・1 ブック
ある中学校では、入学時に「ブックバッグ」を購入し、隙間時間に読書に親しんでいる。また、1 年次の「美術科」の授業では、その袋に各自の名前をレタリングする。宮崎県が推奨する「1 BAG・1 BOOK」に取り組むことにより学校全体が、ユニバーサルな学びの場としての「読書活動推進」に功を奏している。

(3) 仲間をつくる ～本との出会いの場を創造し、友と語らう場を創る～

- ① 読み聞かせ・本の紹介 …… 五感をくすぐる絵本たち、そして、「語り」の力
 - ア ジャンル 絵本・昔話(神話)・季節に応じた資料・セラピー絵本等
 - イ 実施方法
司書や地域ボランティア、保護者、教師、児童・生徒等による読み聞かせを朝の時間や帰りの会后、昼の放送等で行っている。また、朝の会を活用した本の紹介等の取組もある。児童・生徒による読み聞かせの際には、司書と事前打ち合わせを行い、興味のひく本の選び方や見やすい本の持ち方、伝わりやすい読み聞かせの仕方等のアドバイスを受けて実施した。

- ② インタラクシオン活動(合理的配慮を有した) …… アクティブ・ラーニング
 - ア ファミ読(うちどく)カードの活用
 - イ リモートによるビブリオバトルの実施(司書が作成した極意書の活用)
 - ウ 昔話で読書ビンゴ(昔話クイズ)
 - ③ ブック・トーク …… テーマを工夫し読書の世界を広げる。
 - ア 支援学級・交流学习での取組
 - イ 行事に関連付けた内容
 - ウ ポスターセッションの導入
 - ④ ポップカードの展示…学習発表会での展示や他校との交換展示を行ったりした。
 - ⑤ 図書館まつり・読書集会の実施、読書旬間の設定
 - 委員会による読書クイズや県の「ナッシー読書スタンプカード」活用、昼の放送での読書クイズや読み聞かせ等を行った。読書ビンゴでは、児童おすすめの本をビンゴに取り入れることで、内容や感想を共有した。
 - ⑥ 古本のリサイクル
- (4) その他
- ① LLブック・特別支援の本の購入
 - ② 色シール(絵本の背表紙に貼付)による本の分類
 - ③ 絵本を使ったアンガーマネジメント教育

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 研究主題のもと、学校図書司書と全小中学校の図書主任がとともに各校の現状を把握し、情報を共有し、考える場がもてたこと、また、各校の学校図書館が課題意識をもって、その改善策に取り組めたことが一番の成果である。
- 「ユニバーサルな学びの場所」としての空間と時間の創生が、さまざまな方々とチームを組みながら進めることができた。
- 職員が一緒に貸し出し活動を行ったり、ブック・トークで、学年に応じた本や季節、行事に応じた本を紹介されたりすることで、児童・生徒がさまざまな角度からの本選びに気付くことができた。
- 児童・生徒による読み聞かせでは、読むのが苦手、みんなの前で発表することが苦手という児童・生徒も自信がついた。また、読み聞かせにより、地域の方や児童・生徒同士の交流を深めることができた。
- アウトプット読書に取り組むことで、本の構成のよさや見やすさを伝えたり、読んでみたいと思わせる工夫の仕方を考えたりしながら紹介することができるようになってきた。
- インタラクシオン活動では、「読書を通じて、このような“交流活動”ができてよかった。」という生徒の感想から、共に学び、高め合う「仲間」創りの場が、最適な方法で提供することができた。

(2) 課題

- 「読書の楽しさ」や「読書活動の面白さ」をまだ体感していない子どもたちに、どんな空間で、どの時間に、どの本を、どのように手渡していくか、さらに研究と実践を重ねていく必要がある。
- 豊かな学びを育む学校図書館づくりのために、学校図書司書と各校の図書主任との情報共有や共通理解を行う場を、今後増やしていく必要がある。
- 小規模校では、係活動や学校行事準備等で、読書時間の確保や貸出が難しい傾向にある。
- 図書館まつり等のイベント後も読書を継続する方法を工夫する必要がある。
- 今後、「ひなデジ」の周知と活用について、図書館教育担当が中心となって、計画的に取り組み、読書指導を充実させていく必要がある。

1 学校図書館活動の取組

(1) 地域図書館との連携

① 綾中学校の取組（綾町「てるは図書館」との連携）

ア 夏休み読書感想文課題図書などのブックトーク

- 夏休み前に読書感想文の課題図書などのブックトークを、図書館司書にお願いした。熱い語り口で本について説明してくださり、多くの生徒が課題図書を手に取る様子が見られた。また、それ以外のお薦めの本についてもお話してくださり、生徒から購入の要望が出されたりし、生徒の読書意欲の高まりがみられた。



イ 学級図書の配備

- 毎月1回、学級図書を図書館が選定し、配備してくださったので、学級内で読書をする雰囲気が作られた。また、毎月の図書回収と消毒作業を図書委員会で行うこととし、委員会活動も活性化された。



ウ てるは図書館祭りへの参加

- てるは図書館祭りに、国語科で作成したPOPを展示してもらった。学校の図書だよりで紹介し、生徒や保護者が図書館に足を運ぶきっかけになった。

(2) 地域「読み聞かせボランティア」との連携

① 綾中学校の取組

年3回、地域の読み聞かせボランティアに来ていただき、読み聞かせを実施した。ボランティアの方々はその時々に必要な情報の入った絵本を選んでくださり、中学生として考えが深まる内容のお話を読み聞かせしてくださった。1時間目を学年国語にして取り組むことで、朝自習がなくなった校時程の中でも実施することができた。



② 八代小学校の取組

ア ボランティアによる読み聞かせ

- 年9回、各学年に1名ずつ町のボランティアの方々による読み聞かせを実施した。発達段階に合った絵本を選んでいただき、火曜日の朝の会後に行った。

イ 八代中学校の生徒による読み聞かせ

- 昼休みに八代中学校の生徒が来校し、児童への読み聞かせを行った。読書推進活動とともに、地域の中学生との交流も深めることができた。



(3) 読書活動推進事業

- ① 令和4年度より、国富町では、読書推進事業の指定を受け、本年度は、八代小学校を拠点校として図書館担当事務職員が1名加配され、八代中学校、森永小学校、木脇中学校が支援校として読書活動の推進にあたった。12月には、八代小学校にて読書活動推進のための研修会とし、第3学年国語科の公開授業と「授業における学校図書館の活用と実際」という実践発表を行った。

(4) 各学校内での図書行事への取組

① 図書委員会による活動

ア 各学校の図書委員会の活動が活発であった。学校行事や季節行事に合わせた取組、図書集会を開催することで、児童、生徒の読書をしたいという意欲を高めることができた。



② ビブリオバトルの開催

ア 森永小学校で行われたビブリオバトルは大盛況になり、頂上決戦まで行った。八代中学校では、毎年数回ビブリオバトルを開催しており、今年度も生徒による見事な発表がみられた。



(5) 教職員の研修・作業

① 書架整理・除籍

ア 八代小学校では、除籍基準の研修を実施し、実際に除籍作業を行った。約1,000冊の除籍ができ、図書室の環境を整えることができた。森永小学校では、9類（文学）棚の本の並び替えや、パソコンの撤去、パーテーションの設置を行った。

② ビブリオバトル

ア 八代中学校では、教職員がそれぞれ推薦する本をプレゼンテーション式に紹介し、その内容について討論をした。教職員同士のコミュニケーションに役立てることができた。



2 1年間の成果と課題

- 宮東地区図書主任会を通して、各校の課題や成果をまとめることができた。
- 各校、学校司書（支援員）の活躍により充実した図書活動に臨めているようだったので、引き続き支援員の配置をお願いしたい。

- 校時程の変更により、生徒が一斉に読書をする時間が無くなり、読書離れ（図書室の読書量の減少）も進んでいるので、何らかの工夫や時間の生み出しを行いたい。

1 研究主題

「学校司書及び読書活動アシスタント・司書教諭の役割」
～図書主任の役割と学校司書との連携のあり方～

2 研究の実際

令和5・6年度は、各学校の図書主任の役割と学校司書・読書アシスタントの連携のあり方について研究を進めた。5年度のアンケートの結果を基に、より充実した連携を図るための具体策を模索した。第1回と第2回の宮崎市の図書主任会において検討を重ね、8月8日の宮崎県図書館教育研究大会県北大会において、小学校と中学校の代表者にそれぞれ発表をしてもらった。今回再度アンケートを行い、各学校の取組の実際や現状を確認し、以下のようにまとめた。

(1) アンケート項目

- | |
|---|
| 1 図書主任と学校司書・読書活動アシスタントの打ち合わせ時間 |
| 2 連携の方法 3 連携の内容 |
| 4 図書主任と学校司書・読書アシスタントの仕事の実践について |
| 5 連携の意識について 6 各学校で実践されている図書館教育で工夫されていること |

(2) アンケート結果から

- ・ 図書主任と学校司書・読書アシスタントの連携時間は、前回のアンケートと大きくは変わらなかったが、連絡や連携の方法（日誌、付箋、メモ 委員会の時間の活用）を模索することで、より連絡や連携が進んだ。
- ・ 連携への意識については「以前も今も出来ている」「以前よりも連携できるようになった」がほとんどであった。
- ・ 仕事内容も学校によって多少内容には差があったが「連携して行っているもの」と「分業して行っているもの」も、すみ分けがはっきりしていた。

○連携して行っているもの

- | | |
|---------------------|------------------|
| ① 図書館配当・学級文庫、利用計画など | ② オリエンテーション実施計画 |
| ③ 計画的な蔵書計画 | ④ 家読・多読賞などの準備や対応 |
| ⑤ 各種行事計画 | ⑥ その他 |

＊①④⑤は、ほぼすべての学校で実践、②③は、半数ほどの学校が実践していた。

○分担しているもの

学校司書や読書アシスタントの役割として

図書室でのカウンター業務・購入計画・図書室の設営など

図書主任の役割として

職員への連絡やお知らせ、図書委員会の放送原稿やアナウンス指導など

○各学校の工夫

- ・ 図書室の設営 ・ 新刊案内 ・ パスファインダー ・ 図書新聞
- ・ POP 作り ・ おすすめの本の紹介 ・ 新聞の掲示 ・ 選書会 ・ 読み聞かせ
- ・ 図書館祭り ・ 企画展（「楽しみブック」紹介 ・ 亡くなられた作家さんを偲んでなど）

3 その他の取組

学校司書・読書活動アシスタントの取組

- 今年度各学校の蔵書点検を夏休み中に近隣の学校数校ずつチームで行われた。その結果効率的な蔵書点検が出来ただけでなく、学校司書やアシスタント同士の情報交換ができた。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

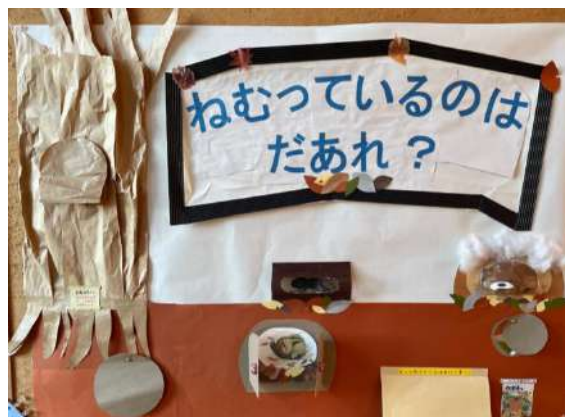
- 学校司書や読書活動アシスタントの役割について、共同ですべきこと、分業でできることを考えたことで、これまで気付かなかった仕事内容の意義や仕事の効率化を図ることができた。
- 最初のアンケートで学校司書・読書活動アシスタントと図書主任の認識の違いが浮き彫りにされたが、今回のアンケートは、学校司書または読書活動アシスタントと司書教諭で話し合いながら回答してもらった。そのため意識の共通認識ができた。

(2) 課題

- 学校数が多いことや、各学校の図書主任が昨年度と変わった学校が多く、アンケートの回収及び昨年度との比較が十分ではなかった。
- 学校司書・読書活動アシスタントの蔵書点検では、学校によって図書室のPCの使用環境に違いがあり、整備に課題があった。

(研究担当 宮崎市立生目南中学校 長友智子)

○各学校の取組例



季節の掲示・児童玄関前の 掲示物

亡くなられた作家さんを偲んで



さくら ももこさんを偲んで



谷川 俊太郎さんを偲んで